

第19回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日時 2004年5月18日（火）10：30～11：40
2. 場所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室
3. 出席者 近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員
内閣府
藤嶋参事官（原子力担当）、後藤企画官、犬塚参事官補佐
核燃料サイクル開発機構
伊藤特任参事、もんじゅ建設所長、
榊原敦賀本部国際技術センター次長
4. 議題
 - （1）原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画の策定について
 - （2）第4回敦賀国際エネルギーフォーラムの結果について
（核燃料サイクル開発機構）
 - （3）その他
5. 配布資料
 - 資料1 - 1 原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画の策定について
（案）
 - 資料1 - 2 原子力長期計画について伺った主なご意見（中間とりまとめ）
 - 資料2 第4回敦賀国際エネルギーフォーラムの実施結果について
 - 資料3 第17回原子力委員会定例会議議事録（案）
 - 資料4 第18回原子力委員会定例会議議事録（案）
 - 資料5 原子力委員長計についてご意見を聴く会（第15回）の開催
について
6. 審議事項
 - （1）原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画の策定について

標記の件について、後藤企画官及び犬塚参事官補佐より資料 1 - 1 及び資料 1 - 2 に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(近藤委員長) 本日の資料はドラフトであり、これからのご議論を踏まえて成案を作成し、次回に決定できればと考えている。

(木元委員) 資料 1 - 2 の 9 ページに記載がある市民参加懇談会において、アイリーン・美緒子・スミスさんから、原子力長期計画(原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画)の策定のための会議では、会議の構成委員を公募で選んでほしいというご意見があった。このご意見に対しきちんとお答えしたい。公募の場合、公募の手続き自体に時間を要する上、さらに応募された方のご経歴、お立場、ご意見などを当委員会で把握し、公正をはかる必要があり、そのためにもかなりの時間が必要である。それよりも、資料 1 - 1 の 3 .(1) に示させていただいたように、原子力委員会がご経歴、お立場、ご意見等を勘案しながら各界を代表する方を選ぶほうが現実的であり、妥当である。

(近藤委員長) そのような判断を踏まえてこの記述が用意されたと理解しているが、この方式は公募による人選の提案とコンセンサス会議のご紹介を何人かの方からいただいたところを踏まえて用意したもの。なお、資料 1 - 1 の 3 .(1) (八)「意見募集や市民参加懇談会の開催等により幅広く国民の意見を聴取してこれを審議に反映させる」という審議の進め方とセットでこれらの提案意見に答えていることもお伝えすべきか。ご指摘のような背景説明が不足しているかもしれない。

(木元委員) 今回の議論は、策定会議が始まっても並行して市民参加懇談会を開催し、ご意見を伺う作業を継続することの表明であり、また、公開で行われているこの定例会議において、スミスさんのご意見に対する議論がなされたことをメッセージとしてお伝えしたい。

(後藤企画官) 資料 1 - 2 の 1 .(3) の 3 番目の項目に記載のある「民主化」という言葉にスミスさんのご意見の趣旨を含めたつもりであったが、もう少し明示的になるように修正する。

(齋藤委員長代理) 公募による人選は、実施するとなると半年ぐらいかかると思う。ご意見があったことを踏まえた上で、学術分野、性別、地域のバランスを考慮し選ぶことを説明することで説明責任を果たせると思う。

(町委員) スミスさんのご意見は、具体的な選定方法のご提案がなく、アイデアとしては良いが、現実的には難しい印象をもった。

(近藤委員長)「原子力基本法、原子力委員会設置法には、民主的な運営のた

めに原子力委員会を置くとされている。つまり、原子力委員会がいわばコンセンサス会議の機能をもって多様な意見を聞いて決定することを付記されている。その方式としてこれが合理的ということをご理解いただけるようにしたい。という結論であったと思うが、ここで再度確認し、原子力委員会の考え方として共有することとしたい。

(齋藤委員長代理) 策定会議の構成について、一般の方がイメージを持てるように、合計人数を数字で示したほうがよいと思う。

(近藤委員長) 他の審議会に席を連ねた経験から判断すると、会議として成立するのは30人が限度であると思う。原子力委員を含め約30人と考えているが、そう記載するか。

(前田委員) 資料1 - 1の1ページの「新たな計画策定に求められるもの」部分で、各界各層から伺ったご意見を整理し原子力長期計画を策定していく旨の記載があるが、この表現では「長計についてご意見聴く会」で伺ったことだけを基本として原子力長期計画を策定するようと思われる可能性がある。「長計についてご意見聴く会」で出なかったご意見もあり、その他国際関係等考慮すべきこともある。表現を変える必要がある。

(近藤委員長) 資料1 - 2とここの部分がリンクしていると思われる可能性があり、表現を注意すべきである。また、資料1 - 2に記載のあるご意見は、発言力のある方をお呼びし伺ったご意見であり、分野や 이슈に対する賛否にかたよりのがある。さらに、資料1 - 2は、伺ったご意見を全体で4ページになるようにそれを要約して趣旨をそのまま記載していて、それに対する原子力委員会の見解を付していないもの。資料1 - 2が一人歩きしないように、冒頭にこの資料のこのような位置付けを明確に記載する必要がある。

また、資料1 - 1の「2. 新たな計画策定における検討事項」について、これから記載することになるが、資料1 - 2に記載のあるそれぞれの項目の見出しのようなものにする方法や「年頭に当たっての所信」(本年1月6日公表資料) の「2. 重点政策目標」に記載のあるような項目を記載する方法がある。事務局において検討願いたい。

(町委員) 資料1 - 1の1ページに「原子力委員会が内閣府に属することになってから初めての作業であることを踏まえつつ」とあるが、内閣府に移ったからといって原子力基本法及び原子力委員会設置法に変更はなく、原子力委員会の役割は変わらない。「踏まえる」は表現が強すぎるのではないか。

(後藤企画官) 行政組織と原子力委員会の関係が若干変わっている。従来は

科学技術庁長官が原子力委員長であり、それをもって行政組織と実務上のリンケージが取れていた。一方、現在は委員長を民間の有識者から選ぶ形になっており、行政組織とのリンケージをどう考えるのかという議論がある。

(木元委員)資料1-2の1.(1)の2つ目の「原子力委員会は存在感、権威を示すべき」という意見は、「内閣府に移ってから事務局も小さくなり、見えなくなった」といった批判を反映している。このような批判を受けないように努力し、原子力長期計画を策定しなければならない。

(近藤委員長)変化は変化として受け入れ、その中で使命を果たしていくということ。何が変わったのかということは今後の計画策定時にも問われるので、組織の変更で何が変わったかを整理しておいてほしい。この点については原子力長期計画の策定作業を進めながら調べることとし、「踏まえつつ」という表現は「配慮しつつ」に変更する。

本件については、委員の方々からあったご意見を反映して資料を修正し、もう一度定例会議で審議し、決定することとしたい。

(2) 第4回敦賀国際エネルギーフォーラムの結果について(核燃料サイクル開発機構)

標記の件について、伊藤特任参事より資料2に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(前田委員)各国から改めてもんじゅへの期待が述べられたという話であるが、MA(マイナーアクチノイド)の燃焼など、もんじゅに対して、期待されている内容を具体的に教えていただきたい。

(伊藤特任参事)アメリカからはAFCI(先進的燃料サイクル・イニシアチブ)における燃料開発の際にもんじゅで照射試験をしたいとの要望があり、フランスからはMA燃焼の研究のためにもんじゅで照射試験をしたいという話があった。また、韓国からは安全解析コード等を改良するためにもんじゅを使いたいと話があり、中国も同様のことを考えている旨話があった。

(榊原次長)MAの共同研究を行うフランスのCEA(フランス原子力庁)からは、フランスの高速増殖炉フェニックスが2008年に停止するので、それ以降はもんじゅを使って集合体レベルの照射試験を行いたいという話

があった。

(町委員)もんじゅを中心とした国際的な研究開発拠点を作る構想があるが、このようなシンポジウムの機会を活用し、各国の意見を取り入れて計画を準備していくことが必要である。また、セッション「地域の技術発展を目指して」について、敦賀商工会議所の方が、地域における技術力の向上、新技術の創生に向けた取り組みなどについて話をされていたが、このような試みに対し、核燃料サイクル開発機構や原子力産業界がきちんと支援することが必要である。例えば、核燃料サイクル開発機構が日本原子力研究所と統合することになっているが、そのようになれば日本原子力研究所が持っている放射線利用技術が利用可能になる。これは地域の方々にとっては使いやすい技術である。他にもアイデアはあると思うが、是非具体的な議論をして実現に近づけてもらいたい。

(伊藤特任参事)研究開発拠点化構想については、核燃料サイクル開発機構も最大限協力したいと考えている。核燃料サイクル開発機構内に「連携協力推進グループ」を設置し、検討を行い、福井県の「エネルギー研究開発拠点化計画策定委員会」にご提言を申し上げようと考えている。

地域への支援について、核燃料サイクル開発機構では技術相談窓口を設けてビジネスコーディネーターを配置し、地元企業からの相談を受けている。さらに、敦賀地区のビジネスコーディネーターについては2人から8人に増やし、5月下旬には新たに敦賀商工会議所と福井商工会議所に技術相談窓口を開設する予定である。

(町委員)ふげんの廃止措置に地元企業が大規模に参入する可能性はあるのか。

(伊藤特任参事)ふげんの解体に関して地元メーカーの方にふげんに見に来ていただいたが、かなり興味を持たれたようであった。

(齋藤委員長代理)照射炉としてもんじゅを活用するとのことであるが、常陽ともんじゅはどのように使い分けるのか。また、それだけの需要があるのか。今回のフォーラムに大勢の中学生や高校生が参加していたとのことであるが、フォーラムの内容が専門的で難しく、内容があってなかったのではないかと。それから、お越しいただいた聴衆に対しアンケートをとったと思うが、どのような結果であったか。

(伊藤特任参事)常陽ともんじゅの使い分けについて、常陽のほうが炉心が小さいため、基本的にピンスケールの照射試験を行う。もんじゅでは燃料集合体ベースの実証的な照射試験ができる。フランスとのMAの共同研究は、もんじゅと常陽とCEAの3者で協調しながら取り組んでいく。

それから、フォーラムの内容は中学生や高校生にとって難しかったかもしれないが、学校では聞けない海外の方の話や著名人の話を聞いてもらうことができたことは有意義であったと思う。

(榊原次長) アンケートは実施したが、まだ結果が出ていない。その結果を踏まえて、フォーラムの内容が難しかったようであれば分かりやすくするように改善をしたい。基本的に中学生や高校生は授業の一環で来ていたが、基調講演や特別講演、セッション の地域の問題のところなど、比較的一般の方にも分かりやすく、興味のもてるところに参加されていたと思う。

(木元委員) セッション は重要なセッションである。原子力技術の地域への貢献が望ましいという話であるが、地元の方が自分たちのほうから「原子力技術を利用して、こういうことができるのではないか」という考えが出てきてほしい。どうしても他力本願的なところがあるので、次回は自立的なアクションプランを強調していただきたい。

(近藤委員長) 大変重要な会合を開催していただき、加えて大勢の方にご参集いただいたことについて敬意を表する。是非次回の会合はよりよいものになるようご努力いただきたい。また、委員の各位からは報告に刺激されての関連質問や提案ともいべき多くのご発言をいただいた。その取り扱いについては少し考えさせていただきたい。

(3) その他

- ・事務局作成の資料3の第17回原子力委員会定例会議議事録(案)、及び資料4の第18回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。
- ・事務局作成の資料5の長計についてご意見を聴く会(第15回)の開催について、藤嶋参事官より説明があった。
- ・事務局より、5月25日(火)に次回定例会議が開催される旨、発言があった。